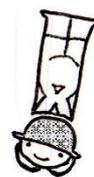
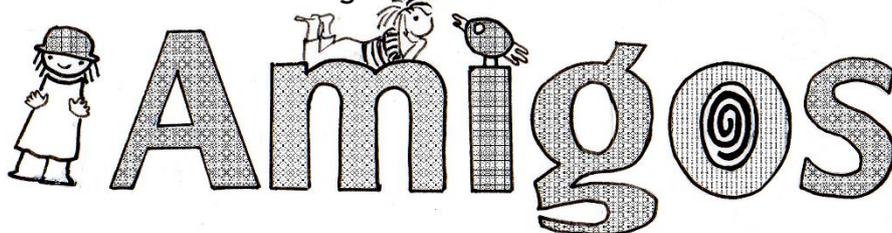


Club de Amigos de Latinoamérica de Osaka



NO.131

ともだち

2023年 4月

CALO(大阪ラテンアメリカの会)が表彰状を =長期功労事業者として=

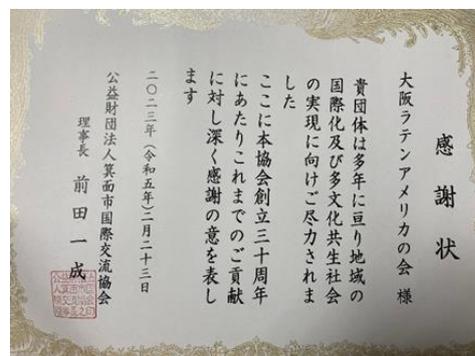
公益財団法人箕面市国際交流協会から感謝状を頂きました。

2月23日に箕面市国際交流協会の創立30周年記念式典が開かれ、箕面市を拠点とする60団体への感謝状が渡され、CALOも長年に亘り国際的な取り組みの活動を認められました。そう言えば、大阪ラテンアメリカの会は94年設立ですが、来年なら私たちも30周年になりますね。私自身がCALOと関わり始めてから20年にな

りますが当初は三重県伊賀市に住んでいて、箕面市と無縁でした。現在、豊中市に在住していますが、本市と箕面市国際交流協会

で外国にルーツある子どもの母語継承活動などに関わっており、箕面で図書館利用や大学通いなど、生活することがむしろ箕面のほうがメインになっています。

記念日の当日、開催された「箕面市立文化芸能劇場」では国際交流協会の活動の動画が流れ、国際化への関心と多文化共生への積極的な取り組みがアピールされていました。例えばCALOがこれまで箕面市の小学校でペルーの紹介をする活動もしてきましたが、街自体が



式典に参加した梶田前代表、カルロス（本人）と子どもたち、ロサ代表

大阪ラテンアメリカの会 (CALO) 〒562-0026 大阪府箕面市外院 3-24-14 (梶田方)

HP <http://calo.whitecafe.jp/>

FAX:072-728-6636

銀行口座:三井住友銀行 箕面支店 普通 0429270

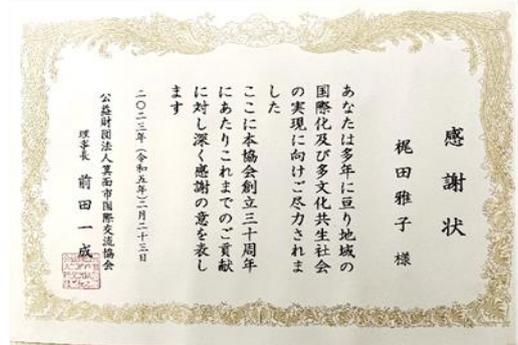
郵便振替:00980-0-57563

国際化に関心がなければこのような活動は難しかったでしょう。また、毎年開催される多民族フェスティバルでは様々な世代の住民が気楽に多文化な体験ができて国際化と共生を目指しています。

そういう意味ではこの街で CALO が存続でき、取り組みも認められたのは箕面市が国際化に積極的な街だったからかなと思います。今後とも箕面市の国際化を応援したいと思います。

また、この式典で 11 名の個人表彰もあり、当会の前代表

梶田雅子が、評議員、長期功労者などとして表彰を受けました。数えきれないくらい多くの方々の協力を得て、がむしゃらにペルーの子どもたちに算数ドリルを作り、絵本を運んだ 30 年足らずの日々でした。それがこの「感謝状」として表彰していただいたことは、協力者、寄付をくださった支援者の方々とともに喜びたいと思います。（梶田：談）



カルロス オチャンテ（事務、会計担当）

2022 年度の CALO の活動報告

皆さま、上記のように CALO の活動が約 30 年に近づこうとしています。コロナ感染が拡大し、海外へ出向いたり、絵本を送ることでさえ難しくなっていました。そんな中でも、活動を一つの学校に絞り、ペルー北部のサンマルティン県のラマス地区に、ペルーに残っていた算数ドリルと絵本を配布することができました。その後、学校施設の不具合や授業の資料作りに必要なコピー機が壊れている等、支援を求める手紙をもらいました。ケシュア語とスペイン語のバイリンガル教育に専念している学校だと知っていたため、例会では授業資料作りのためのコピー機を購入すると決めました。現地スタッフのジャネットさんと相談して、ジャネットさんの叔母のいるサンマルティン県の商業の中心地であるタラポト市に行って調べてくれました。そこでコピー機を注文して、リマ市から届くのを待っている所です。ペルーのアマゾン領域であるため首都のリマ市ほど機械の種類が多くなく、必ずお店に置いているわけでもないです。ペルーの政治事情も混乱していて、あらゆるところでストライキがあり、地方に物が届くのが普段より時間がかかっています。コピー機が学校に届いたときの報告も次回のアミーゴスでできればと思っています。（ロサ）

ジャネットからの手紙

バイリンガル異文化教育機関

算数ドリル配布

ルイス アルベルト ブルッソーネ ピサロ - ワイク学校へ



南米ペルーの共通語は、他の大方の南米諸国と同じようにスペイン語ですが、先住民の言葉アイマラ語とケチュア語も共通語として認められています。しかし、ほとんどの学校ではスペイン語のみで教育が行われています。

この学校はサンマルティン州（首都ペルーの北東部）にあります。

バイリンガルの初等教育機の必要性から1986年にこの学校が設立されました。周りの住民の反対もありましたが、保護者たちの強い要望により、設立にこ

ぎつけました。それはケチュア語でいう「チョバチョバ」が実行されたのでした。それは「あなたはわたしを助け、わたしはあなたを助けます」という意味なのです。ケチュア族の助け合いの精神なのでしょう。そういう夢と希望が学校設立ということにつながったそうです。

2013年1月15日に、教育サービスは未成年者のための中等教育のレベルまで拡大され、中等教育1年生の未成年者向けの初等および中等レベルから始まり、現在は1年から5年まであります。

現在、小学校8名、中等部8名の教師がいます。

ここの子どもたちは母語としてスペイン語を話し、第二言語としてケチュア語を話します。彼らの家族は主に農業をし、主にバナナ、コーヒー栽培、そして小規模ではあるが持ち帰り用のパン製品、規模が小さいですが、ニワトリの飼育等に専念している家族です。



『感謝！』

子どもたちに代わって NGO 大阪ラテンアメリカの会 CALO (Club de Amigos de Latinoamericano de Osaka) に感謝の意を表します。

テキストを寄付してくださったことを深く感謝しています。子どもたちの良い学び、そして私たちの目標を達成するため大いに助かっています。(校長)



以上、現地スタッフのジャネットさんからの報告です。もう、新しく算数ドリルを作ることとはしていませんが、今まで5校に配布をして残っていた算数ドリルをジャネットが保管してくれて、欲しいという申し出によって彼女が持って行ってってくれています。

例会の報告

今年に入ってからコロナ禍の影響を受けてあまり活発に例会を持つことができなかったことは残念でした。

12月17日：久しぶりの例会。マスク、換気で窓やドアを開け放って。今後の活動について話し合った。

1月：例会なし。

2月18日：対面での例会。ラマス校の支援について話し合った。

3月：春休み例会なし。

4月22日：対面での例会。アミーゴス発送作業。

CALOの例会予定

オンラインと対面で開催を行っている。
*急に開催できない時があるので、新しく参加いただく方は一応お問い合わせください。(09087540059 梶田まで)

あとがき：皆さん、今年1回目のAmigos

です。例会も必要性に応じて開催したり、気楽に、負担にならない程度で活動をすすめています。報告にも書いたように、支援する学校も一つに絞り、できる支援を続けて行っています。コロナの感染症拡大も落ちついたため、今年こそ現地視察ができるといいなと思っています。そうなったら、また皆さまに報告をしていきたいです。

ここで一つ大切なお知らせです。

銀行の口座の名義が変わりました。

代表も変わり、口座名義も変更することにしました。

「大阪ラテンアメリカの会 代表

OCHANTE MURAY ROSA

MERCEDES」です。長くてお手数をおかけします。

今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。(R)